

「平成、そして令和の時代も！」西村

平成が終わろうとする4月に、「終活アドバイザー」セミナーに参加してきました。令和の時代に向けて、自分の平成時代の棚卸の為。そして相続のご相談のお客様に幅広いアドバイスができるようになる為です。昨今、終活という言葉をよく耳にしますが広辞苑にはまだ載っておらず、エンディングを考えることを通じて、自分をみつめ、今をよりよく自分らしく生きる活動のことを言うようです。私の令和の設計図はまだ白紙ですが、まずは平成にやり残したことに一歩踏み出したいと思っています。そして船越事務所も令和の時代に入り、新しいサービスを提供させていただくことになりました。「電子会議室」という顧問先さま専用のインターネットを利用したオンラインサービスです。金融機関のネットバンクと同レベルのセキュリティー対策が施されていますので安心してお使いいただけます。令和の時代も引き続き船越事務所をよろしくお願い致しますね。



今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）】

オフィス業務の効率化や自動化に向けた取り組みのこと。工場のライン業務などで導入が進むITやロボットの活用領域をホワイトカラーにも広げ、機械学習や人工知能などの技術を備えたソフトウェアロボットが業務を代行したり自動化したりする。手順が定められた事務処理や書類が多い金融業、人事部門の定型業務などが対象。日本の労働人口は減少局面にあり、労働力の維持や有効活用、働き方改革の観点でも注目を集めている。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【才能と運に恵まれた平安貴族「藤原道長」】

「この世をばわが世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」の歌で知られる藤原道長は996年、藤原兼家の五男として生まれました。



時は平安時代、藤原家は一族の娘を天皇家に嫁がせ、婚姻関係を結ぶことで権威に近づき栄えてきました。政治の実権を握る「幼少の天皇の代理人である摂政」「成人した天皇の補佐役である関白」といった摂関政治が確立されると、貴族たちは一族

の娘を天皇家に嫁がせて政治的権力を握ることに腐心していました。末息子だった道長は、政変や親族内の争いを間近に見て育ち、政治の動向を見極める目を養ったといえます。父・兼家が摂政になり一族を引き上げたことに加えて、一条天皇の母である姉・詮子の後援も得て順調に昇進しました。そして3人の天皇に自身の娘3人を嫁がせて、貴族政治の全盛期を築き上げたのです。このように政治力に長けた道長でしたが、文人の顔もあわせ持ち、華やかな王朝文学の発展にも寄与しています。娘・彰子を一条天皇に入内させる際に、彰子の品位と教養を高め一条天皇の関心を引き付けようと、当代一流の才媛たちを集めて彰子の侍女とします。その中の1人が紫式部で、道長は紫式部の執筆を物心両面で支援し、その結果、世界初の長編小説といわれる『源氏物語』が誕生したのです。主人公の光源氏は道長がモデルになっているともいわれています。

今を生きる 先人の言葉

仕事の報酬は仕事だ
それが一番うれしい

ソニー創業者の一人である井深大の言葉。いい仕事をすれば、次に面白い仕事舞い込んでくる。さらにいい仕事をした後は、もっと面白い仕事舞い込んでくる。

